

の良さを見つめる活動を実施していた。2回目となる今回は、100周年記念事業に向けて地域とのかかわり、協働を考える機会

緒に考えた。奥州校通信制の小山愛生さん(18)は「普段、地域のことになかなか目を向ける時間がなかった。2日間の短

い時間だったが、これからの生活で意識したい新しい考え方などが得られ良かった」と話していた。

ニールセン北村朋子さん、一般社団法人いわて圏の佐藤稔平代表理事らがそれぞれの取り組みを紹介した。

このうち佐藤代表理事は、法人としての活動や自身の進路決定に至るまでの過程を説明しながら「進路や生き方を考える時、先生や親から助言してもらうのは重要だが、バイト先や地域活動で知り合いたい大人と接点を作っておくことも大切。地域の人から気付きを得ることで道が開ける」と地域との関わり的重要性を指摘した。

生徒交流会 将来の在り方考える

県立杜陵高校の第2回オール杜陵高校生徒交流会のワークショップは26日夜、金ヶ崎町

永沢の県立奥南青少年の家で行われた。生徒たちは地域づくりや教育活動を推進する大人たちの話を聞き、地域との関わりや自身の将来の在り方などについて思いをほせた。

未来を切り開くために地域と協働しながら自分に何ができるのかを考える機会にもなると企画。ワークショップでは、同校卒業生で市議の宍戸直美さん、テンマークで教育活動を展開している

地域との関わりについて意見を交わした杜陵高校生徒交流会のワークショップ



ワークショップ

最後の教育機関として、勉強や知識だけでなく人間性も身につけてほしいと願っている。地域の人たちから刺激を受け、何か感じ